

ところで、病院開設の1982年ってどんな年だったのかな？

**1982年(昭和57年)
10大ニュース**

その年の10大ニュースから振り返ってみましょう～

宿泊客の寝タバコが火事の原因らしいわ。スプリンクラーも故障で作動しない防火設備不備の欠陥ホテルだったの。

ホテル・ニュージャパン火災事故
東京 永田町のホテル・ニュージャパンの9階客室から出火し、約9時間にわたって炎上。死者33人の大惨事となった。

機長の行った操作「逆噴射」や副機長が発した「機長、やめてください！」は、この年の流行語になったのよ。

羽田沖で日航機墜落事故
東京 羽田空港沖で着陸態勢に入った福岡発の日本航空 DC8 型機が滑走路手前の海上に墜落し、乗客174人中24人が死亡した。

取締役会で全会一致での社長解任時に岡田が発した「なぜだ！」も話題に。まさに「裸の王様」だったのね。

鈴木善幸首相退陣、中曽根康弘新内閣発足
三越事件で前社長ら逮捕
百貨店の老舗 三越の岡田茂社長が「岡田天皇」と呼ばれる独裁体制を確立させ、寵愛する竹久みち「三越の女帝」と会社を私物化していった事件。後日二人は19億円の特別背任罪容疑で逮捕された。

この時の始発駅は「大宮駅」だったの。3年後に「上野駅」まで延伸し、「東京駅」とつながったのは1991年よ。

東北・上越新幹線が開業
長崎に集中豪雨
長崎市内では中島川にかかる眼鏡橋(国の指定重要文化財)が半壊した。

最近各地でゲリラ豪雨が発生してるけど、この時記録された1時間の降水量153mmはまだ超えられていないわ。

「教科書」内外で問題化
歴史教科書検定で、文部省が旧日本軍の「侵略」を「進出」と書き換えさせたとして、中国や韓国など外交問題に発展した。

大阪府警、ゲーム機汚職
賭博ゲーム機やピンクサロンの摘発情報を業者に流し、賄賂を受け取ったという汚職事件。現職警官3人、OB2人、業者10人が逮捕された。

番外編
●日本電信電話公社(現 NTT)がカード式公衆電話を設置し、テレホンカードを発売した。
●500円硬貨の発行。●日産「マーチ」発売。

偽5000円札事件、大分で解決
当時として過去最大10億円超の偽五千円札が大分市の不燃物投棄場で発見され、大分市内の元印刷会社社長らが検挙された。実際に使用されたのは24万円だった。

IBM産業スパイ事件
日立製作所と三菱電機が、世界最大のコンピューターメーカーIBMから、機密文書を手に入れるため、米連邦捜査局(FBI)のおとり捜査官に多額の現金を支払ったという産業スパイ事件。

昭和57年に生まれていない人もいると思うけど、なんとなく雰囲気伝わったら嬉しいわ。

かそりーぬとラジオ体操をやってみました♪

千葉市若葉区では、ラジオ体操を通じて区民の健康づくり・まちづくり・地域づくりを推進しています。ラジオ体操の効果と魅力を伝える啓発動画として『かそりーぬとラジオ体操をやってみた』を昨年度から配信しました。シリーズ最新作は「(仮称)若葉区の名所・働く人編」。当院職員も参加しています！ラジオ体操全編の一部で流れますのでお見逃しなく。なお、動画配信は年内を予定しています。



撮影地：当院新館屋上 2022.9.9(金)

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆
スポーツの秋到来です。ラジオ体操はたった3分でできる全身運動。健康のため毎日1回の「ラジオ体操」を始めてみませんか？

CCMCニュース 81号
●今月の寄稿者・取材協力者
大谷 俊介 (診療部)
福田 和正 (診療部)
＜編集＞ 広報委員会
<http://www.ccmc.seikei-kai.or.jp/>

千葉中央 メディカルセンター
Chiba Central Medical Center
ニュース第81号 令和4年10月20日
企画：千葉中央メディカルセンター 広報委員会
千葉市若葉区加曽利町 1835-1 043(232)3691

＜理念＞「信頼と奉仕」
＜基本方針＞
1.患者の権利を擁護し、公正な医療を実践します
2.教育・研修を推進し、医療の質の向上に努めます
3.信頼関係に基づいた安心・安全な医療を提供します
4.職員が喜びと誇りを持って働ける職場づくりを目指します
5.医療連携の充実を図り、地域の保健活動に貢献します

＜患者さまの権利と責務＞
人は病気になっても、人間としての尊厳が守られなければなりません。従って、医療を受けるに当たり、患者さまは以下の権利と責務があります。
1.自分の病気の事を知る権利/2.医療を受ける事を決める権利
3.安全が確保され現時点で最良の医療を受ける権利
4.意見や苦情を申し立てる権利/5.プライバシーが守られる権利
6.医療従事者と共に医療に参加し協力する責務
私たちは以上のことを尊重し医療を行います。

1面：(特集) 救急科 2面・3面：写真で振り返る「千葉中央メディカルセンター」の40年 4面：Information

PICK UP 診療科

特集：救急科

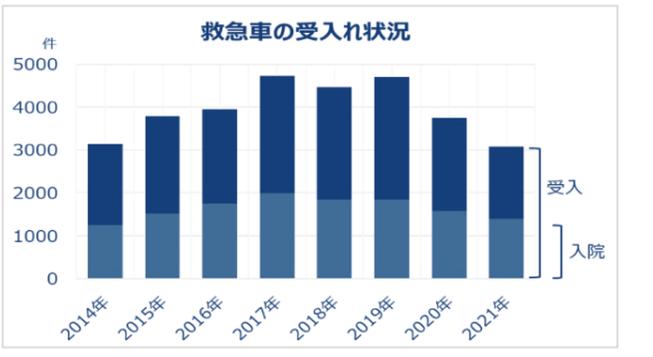
救急医療機関は一般的に一次救急医療機関・二次救急医療機関・三次救急医療機関と分類されます。一次救急医療については、千葉市の場合、夜間は千葉市立海浜病院内にある千葉市夜間応急診療(夜急診)が、休日は美浜区幸町にある休日救急診療所がその対応をしています。三次救急医療は緊急性・専門性が高かったり、複数診療科にわたるなどの患者さんに対応するもので、千葉市では千葉県救急医療センターと、千葉大学医学部附属病院がその役割を果たしています。

当院はその間にある二次救急医療機関で、入院治療を必要とする重症の患者さんに対応する医療機関です。規模の大きい急性期基幹病院は千葉市では中央区に集中しており(注)、当院のある若葉区やお隣の緑区は入院医療機関が決して多いとは言えません。

救急科の基本方針は
ー地域住民の健康と安全を支える救急医療を実践する
ー千葉医療圏における救急医療体制の確立に貢献する

の二点です。救急外来は常勤医2名と非常勤医1名で主に対応させていただき、院内の各診療科の医師と協力して診療にあたっています。当院はベッド数300床にも満たない中規模病院であり、すべての診療科が揃っているわけではありません。しかしながら各診療科の連携体制やチーム医療の充実さは他の病院に勝るとも劣らないと考えております。地域の皆様の安心になるような医療を提供するように心がけています。

当院の令和3年度の救急車受け入れ件数は3113件で、前年度より減少傾向にありました。



これは新型コロナウイルス感染症の第5波・第6波の影響を受けての感染病床や発熱外来の開設などのためと考えられます。今年度も新型コロナウイルス感染症の第7波のため、7月～8月は千葉県全体の救急医療が危機的状況になり、当院でも応需できない救急要請が発生してしまっています。救急医として働き出して20年近くになりますが、今までは起こらなかったような医療需給の崩れが発生しています。これを読んでくださっている皆様も、ご自身の健康や不測の事故について、十分お気をつけただけをお願いいたします。

(注) 第1回千葉市病院事業のあり方検討委員会2018.12.27資料6-2「千葉医療圏及び両市立病院の現状と課題」

救急科 大谷 俊介
医学博士
日本救急医学会救急科専門医
日本集中治療医学会集中治療専門医
日本DMAT 総括DMAT 登録者

写真で振り返る「千葉中央メディカルセンター」の40年

院長 福田 和正

現在のバス停から眺めた加曽利病院です。左は開院時の姿です。右は1990年代に行われた増改築後の姿です。向かって右側が増築され、リハビリ室、レストラン、歯科治療室などが新設されました。



1982年(昭和57年)頃



1993年(平成5年)頃

1999年に坂月川沿いに新棟を増築し病床数を272床に増床、2004年には病院名を「千葉中央メディカルセンター」へ変更し、地域医療の中核を担うべく再スタートを切りました。左は新棟増築前の全景、右は現在の姿です。2020年には正面玄関上に手術棟が増築されました。



1997年(平成9年)



2020年(令和2年)

これは現在の2-1病棟ナースステーションです。シンクの場所が現在も変わらず残っています。看護師さんたちが座っている場所は、現在は手術室の一部となっています。2-1病棟ナースステーションカウンター(左)が手術室入口の自動扉に変わっています。



1982年4月に病床数150床の「加曽利病院」として開設した当院は、今年4月に40周年を迎えました。古い写真を頼りに40年を振り返ってみました。



正面玄関



上の写真は開設当時の外来受付カウンターです。左端が正面玄関です。下の写真が現在の同じ場所です。玄関の位置と2本の柱から当時の姿を想像してみてください。正面玄関を入ってすぐ左側の謎の潜り抜けスペースは事務室への入り口だったんですね。



上は新棟増築以前の救急入口の姿です。救急車が停車している場所は、現在の中庭です(下)。救急入口は新棟と接続したため無くなってしまいましたが、避難用滑り台が当時のまま残っています。

おそらく1998年頃の看護研究会の様子です。黒板に書かれている研究会テーマは「申し送り時間短縮に向けて」です。医療現場の課題は今も昔も変わっていないようです。



理事長 中村 孝雄

当院は1999年の新棟増築と272床への増床を契機に、「信頼と奉仕」を病院理念に掲げ、地域医療に貢献すべく様々な施策を進めてきました。2000年以降の主な施策を以下に示します。この間、病院の常勤職員は約450人から600人になりました。常勤医師数は約35人から65人に増えました。

- 2000年 回復期リハビリテーション病棟開設、心臓インターベンション開始
 - 2002年 病院機能評価(Ver.3.1)受審
ICU・CCU施設基準取得
 - 2003年 心臓血管外科開設
 - 2004年 電子カルテ導入
「千葉中央メディカルセンター」へ病院名変更
医療安全管理室と専従セーフティマネージャー配置
 - 2007年 新棟(厨房・院内保育・職員食堂・健康スポーツセンター)運用開始
病院機能評価(Ver.5)更新
初期臨床研修施設(管理型)認定
内視鏡センター稼働
 - 2008年 糖尿病センター外来棟新築
外来化学療法室開設
DPC請求開始
 - 2009年 医師5人当直体制(外科系、内科系、循環器、脳外科、ICU)
 - 2010年 脳卒中ケアユニット施設基準取得
7対1看護基準取得
 - 2011年 東日本大震災第1次被災地派遣隊、第2次被災地派遣隊
 - 2012年 病院機能評価(Ver.6)更新
感染管理室設置
 - 2014年 心臓血管センターが千葉メディカルセンターに異動
 - 2017年 病院機能評価(3rd G: Ver1.1)更新
 - 2018年 感染症用陰圧室(2床)設置
 - 2020年 手術室増築棟竣工
- 等々

40年を振り返り、一歩一歩進歩しながらここまで病院運営を継続することができたのも、地域の皆さま、連携医の皆さま、関連業者の皆さま、そして職員のご理解とご協力があったことと思います。40周年を機に改めて「信頼と奉仕」の理念を思い起こし、これからも地域医療の中核病院としての役割を全うするために全力を尽くして参ります。